

《犬猫用 歯磨き手袋の開発 (獣医師 塩田真より)》

野生動物の世界では虫歯は存在せず、歯磨きの必要はありません。通常自然界では弱肉強食なので、猫ならネズミを捕って食べる時に、皮や肉まで歯茎に食いついてないと引きちぎれませんし食べられません。つまり、捕食するたびに歯を磨いている事になります。唾液の99%~99.5%は水分です。多くの消化酵素や、驚くことに自分の歯を治そうとする成分まで含まれています。中性に近いアルカリ性で、酸度でいえばPH8位のものもあります。ともあれ、唾液は飲み込みやすくするために食物に水分を与えたり、満点に近い働きを持っています。動物は怪我をすると患部を舐めますが、それは殺菌作用があるからなのです。

昔と違って、今の世界では食べ物がペットフード主流になっています。ウエットであろうが、ドライであろうが製品の均一化のために一度は粉にして、ウエットで商品化するか、はたまた固めてドライにするかの違いだけです。これはビスケットを常に食べていることと同じで、唾液と一緒にになると結構な粉が歯の周りをコーティングしてしまいます。つまり歯垢の原因となる物を与えてしまっている事になるのです。歯垢は3日もすれば歯石に変化し、歯石が成長するときに歯茎に侵入しようとする事で、歯茎から歯槽膿漏になってしまいます。歯石防止に歯茎を引き締めるのと歯垢を取り去る力は、6対4もしくは7対3ほどでもよいくらいです。歯肉を引き締めてやることは、歯石も入り込みにくくなるという事に繋がります。

人間の子供の歯磨きは親が教えます。最初はなだめて、叱って、ほめて教えます。歯磨きの必要性、重要性もそのうち理解し、習慣になって来ます。歯磨きの必要性が理解出来ない犬はどうでしょうか？人間の親子以上に飼い主を信頼している犬にとって飼い主からいきなり口の中に棒を突っ込まれたらどう思うのでしょうか？その行為によって警戒心が増し、信頼関係が崩れることは避けるべきです。市場には多くのオーラルケア商品が溢れていますが、歯磨きが出来る犬は10%以下だと予想されます。

犬が一番信頼するものは飼い主です。飼い主の手であれば犬もさほど嫌がりません。この商品は飼い主が手にはめて歯磨きを行います。手袋型なのでズレませんし、外れません。指先の特殊な段差で歯垢を取る事が出来ますし、2本の指で歯をつまんで歯の裏側も磨けます。指先で歯垢をかき出すことも出来ます。歯茎のマッサージは遊びながらゆっくり行うと良いでしょう。なによりも「さあ、歯磨きやるぞ！」と、気張る必要もありません。遊びながら、じゃれあいながら、スキンシップの中で、歯の健康が維持される事を目的に開発した商品です。